

---

## 編集後記

---

2020年11月初旬現在、わが国のCOVID-19の蔓延は第2波が収束することなく、そのまま第3波への感染拡大が危惧される状況にある。幸い透析患者でのCOVID-19罹患率は一般人口での感染率と大差がなくなってきた。これは若い世代での感染が拡大した結果、透析患者での感染率に近づいたのが主因と考えられるが、透析施設での感染対策が奏功している証でもある。実際、透析施設での大規模なクラスター発生はみられていない。一方、COVID-19透析患者での致死率は一般人口の約8倍高く、いまだ気を抜けない状態にある。本号の医療安全対策ではCOVID-19対策を取り上げ、都道府県支部別の感染対策と重症例の症例報告も合わせて紹介した。臨床と研究では透析患者の心臓突然死と関連する高カリウム血症、大動脈弁狭窄症に関する論文を取り上げた。2年ごとに実施している透析医療費実態調査の結果も含め、内容の充実した構成になったと自負している。いずれも重要なテーマと考えられ、会員の先生方の実診療でお役に立てることを祈念するものである。

会誌編集委員 篠田俊雄